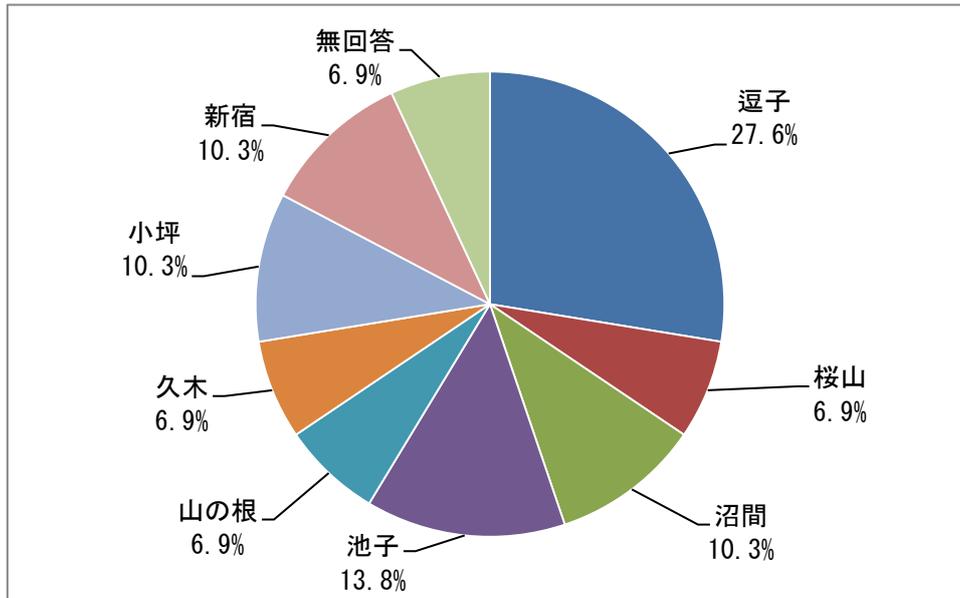


## 第9回 逗子の未来協議会 アンケート結果

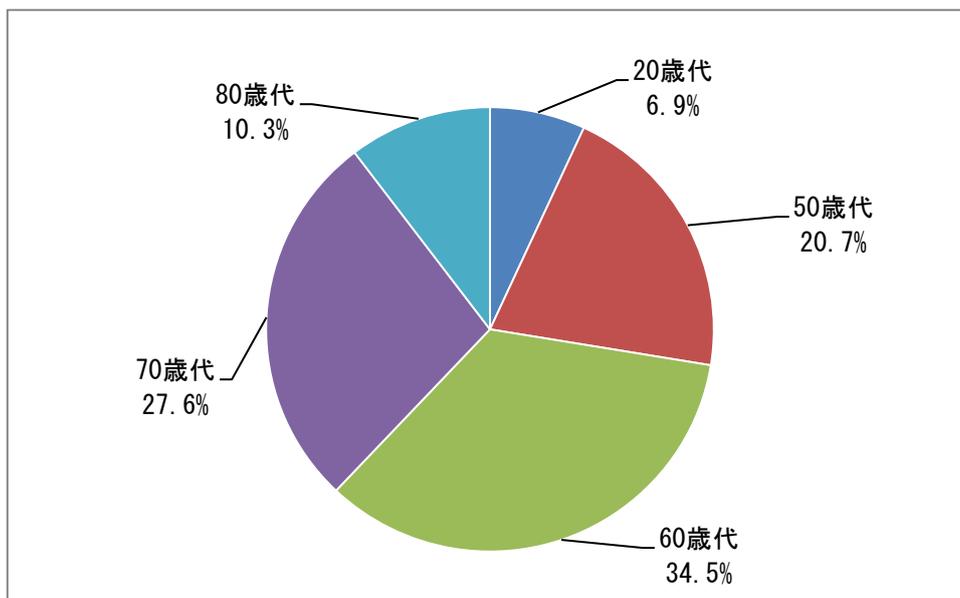
実施日：平成29年8月5日（土）

回収数：29（回収率100%）

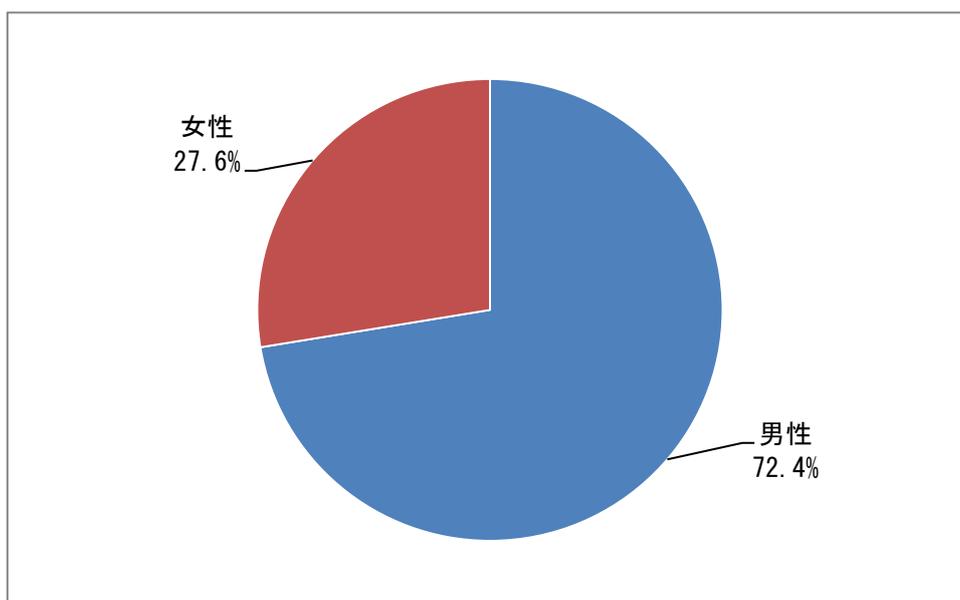
### 1 第9回参加者の居住地



### 2 第9回参加者の年代



### 3 第9回参加者の性別



#### 4 本日話し合った「市民協働のまちづくりで望ましい姿や仕組み」を考える上で一番大切なこと、現状の仕組みをより有効にするための方法や仕組みの中で、あなたがよいと思ったことを記入してください。

##### <情報発信、情報共有、コミュニケーション>

- ◆ 民間の立場からできることは、可能な限り行う。行う上で必要な専門知識や権限を持っている市がその仕上げをすることが理想の協働だと思います。それを実現するために情報を発信し、自覚を市民に持たせることが大切です。
- ◆ 市のほうから協働してほしいことを発信する。市民の方からも同じく発信する。
- ◆ 市民協働の認識の共有も難しい。望ましい姿・仕組みと考へても具体的な事柄が話し合えず残念でしたが、協働を推進するのは市民の情報の共有・信頼・コミュニケーションだという認識をしました。
- ◆ 最もベースにあるべきことは「コミュニケーション」が大切であることを自分のテーブルで確認できたことがよかったです
- ◆ 共有がキーワード。(情報、課題、夢)の共有が重要。それから事実確認、アクションプラン等の動きが続く。
- ◆ 共有とコミュニケーション
- ◆ 課題を共有しコミュニケーションを取り合うなかで、自然体で協働していく姿勢が大事
- ◆ コミュニティ・共有。市民と行政であっても、市民と市民であっても情報共有が大事

##### <「協働」する分野、テーマ>

- ◆ 協働できるテーマは「選択と集中」により、明確に選び出して、行政の役割と市民の役割をハッキリ分けて、両者の長所を生かしながら、実行していくこと。協働は、今まで(従来)行政がやっていたことをそのまま踏襲するのでは意味なく、よりスケールアップ(両者の長所を生かしながら)していくのでなければならない(そうあるべきである)と思う。
- ◆ “協働”は誰でも関わりのある“ゴミ処理”から考えるべし。
- ◆ 市民生活の向上、行政の質向上が基本

##### <「協働」の方法・仕組み>

- ◆ 代表市民の参加。会議などで市民が意思決定にも関わる。
- ◆ 知らず知らずのうちに「協働」している。団体・組織に入らなくても個人が参加できる仕組み、今あるやり方をブラッシュアップ
- ◆ 住民自治協議会の活動は正に協働そのものである。この活動の積み重ねが地域のためになることは、市が良くなることに繋がると云える。但し、住民自治協議会に参加していない個人をどのようにするかが課題である。
- ◆ 具体的な仕組みではないですが、個人で参加、協働できる形があればよいと思います。

- ◆ 話し合う中で日常生活の中で「協働」という活動自体実際の場面でかなりなされていること改めて感じた。(ex. ゴミステーション整備、市民祭りなど) 不用品交換(交流センター)でのzen活用など、自然に「協働活動」に参加していた。今後も無理なく参加できるような市民協働の仕組みを考えていくことが必要と思う。
- ◆ 個別のグループをつなげていく仕組み

### <「協働」づくり、より有効にする仕組み>

- ◆ ポジティブな意見が、多く見られた。近所の人たちと顔が見える関係を作ることが協働をより有効にすると思った。
- ◆ 1人1人の困りごと→近所での助け合いといった、下からの積み上げが協働を作る
- ◆ 市民の生の声を聞くための雰囲気づくり。

### <「協働」は役割分担>

- ◆ 協働とは？自治基本条例の原点は？私は個人ができることをやり、行政は行政のやることをやるのではないのですか？グループ、かたまりを大きくする増やすことに議論が集中しているのでは？
- ◆ ここまでは行政が仕掛けてあとは自分でやる、或いは一緒にやる。

### <「協働」の姿勢>

- ◆ 自分のグループの中で出た「協働」は当たり前にあるべきというのが印象的。協働の手段は1人1人の意識改革から始まるということ。
- ◆ 子供にも大人にも共通して言えることと思いますが、困った時に相談できる、相談を聞いてあげる、そんな姿が大切だと思います。
- ◆ 協働する上で、お互いの立場を尊重することから始めなければならないという意見が出ていた。市民⇔行政の協働がうまくいかない原因になりうるので、この点を意識して取り組んでいきたい。
- ◆ 市職員の熱心さは伝わった。市の職員の意識をさらに高め、市職員一人ひとりが協働という意味を考えてほしい。市民は協働という意識はあまりないと思うので市職員がリードするしかない。
- ◆ 協働=パートナーシップ。一番必要なことって能力の高さとかじゃなくて目標を達成した時に一緒に喜ぶかどうかだと私は思うのだけれど、目標を達成できないのは市民が、行政が、と言っている限り権限を持っていても活かさない。Howを持っていても活かさない行政と民間が手を組む必要がある。

### <「協働」は必要>

- ◆ 協働は必要です。
- ◆ 生活を維持していくために市民協働がより必要になっていく。
- ◆ 市民生活、行政の向上を図るために「協働」は必要

## ＜「協働」という言葉＞

- ◆ 言葉は定義されていなくてはならない。そうでないと、わけがわからなくて動かされることになる。自治とは正反対のことになる。「協働」は定義できないと感じる。協力、協業、参画、など適切な言葉に置き換えるべきだ。
- ◆ 協働というものの定義を明確化する必要があると思う。
- ◆ 今回のテーマの「協働」は具体的にイメージすることが難しい言葉でした。考え続けることにします。
- ◆ 協働という言葉自体知らない参加者の方も何人かいて、具体の仕組みまで話が進まなかった。
- ◆ （「協働」という漢字にこんなにこだわるとは驚きました。一人でしたが他にもいるのか？）他の言葉として、「セルフサービス」はどうですか？（ファストフードのイメージ）

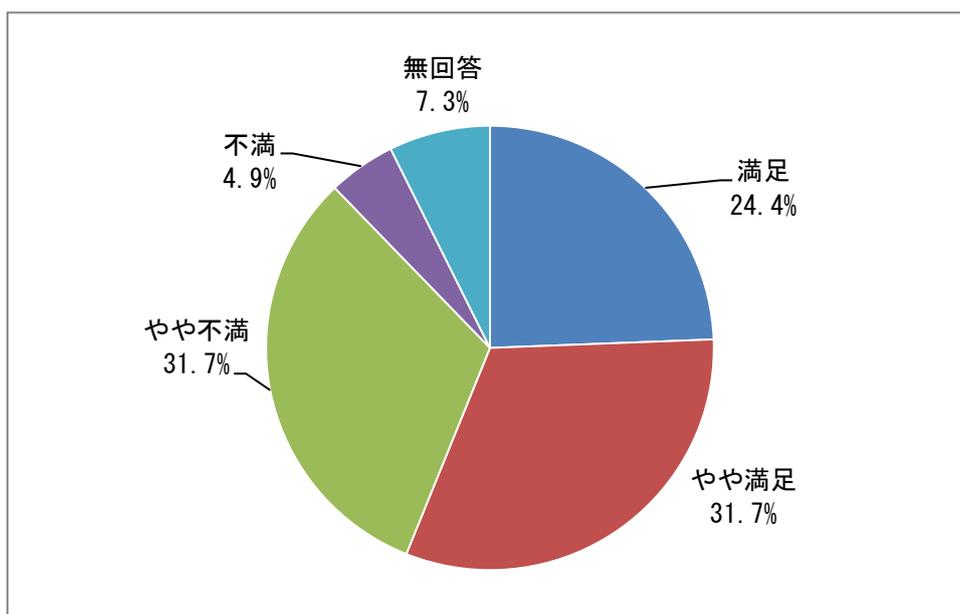
## ＜グループワークの運営の改善についての意見＞

- ◆ 1. テーマの広義がつかみ難かった。  
2. 未来会議の置かれている意味や活用がまだ不明です。意見の行方も見えると良いです。
- ◆ 具体的な事例を交えて考えるともっといい話し合いが出来たと思います。
- ◆ 協働という言葉は初めて見ました。しかし、逗子市役所には数年前から協働〇〇課という部門が設けられていたことを知った。この課がなぜ設けられ現在までどのような業務が行われどのような成果が出ているかが知りたい。この成果をヒントに良いアイデアが出る可能性があると思います。
- ◆ 協働の事例を具体的に出す。市民の気付きを引き出す。
- ◆ 検討に当たって、市長が、考え方、計画の概要をまとめて話されたことは、具体的な検討を始める第一歩としてよかった。
- ◆ 具体的な事例を想定して現実的解決策を見出すことを繰り返すボトムアップを経ないと、実効性の高い価値ある条例は作れない。

## ＜その他＞

- ◆ 定例議会（年４回）の議題選定する議会運営委員会を、市議会議員ではないかた（者）がすべきです。◎（リクエストは「逗子市議会解散、投票し直し」です。）◎
- ◆ そこまで議論が及ばなかった。
- ◆ アーンスタインの定義が興味あった⑥パートナーシップ（協働）②にお飾り市民参加に陥らないように。

## 5 第9回の感想



### 【「1. 満足」を選択した理由】

- ◆ いろんな立場のいろんな方々の意見・考えを聞くことができたから。
- ◆ 妻と二人で参加しました。「勉強」に来ました。とてもいい時間を過ごしましたので楽しかったです。
- ◆ 充実した討論がなされた。
- ◆ いろいろな考えを知って良かった。
- ◆ (ありがとうございました) いろいろの発行書等があられますが、参加させていただき、やっとよくわかりました。
- ◆ 自治基本条例と関連する条例との関係が示されて良かった。
- ◆ 自分の感覚と違う意見が聞けて新たな考え方について検討できた。
- ◆ 普段考えられないような話を聞くことができました。
- ◆ 様々な人の意見が聞けてよかった。

### 【「2. やや満足」を選択した理由】

- ◆ 本日のタイトルの前に申し述べた協働課をまずレクチャーしてほしかった。また、議会担当委員会の参加の予定は？
- ◆ 活発な意見交換、共有ができてよかった。具体的な進展は見られなかったけれども、このようなコミュニケーションの場が持てたことはよかったと思います。
- ◆ テーマが遅い。
- ◆ 議論の時間が足りない。
- ◆ いろいろな意見が聞け、話ができた。
- ◆ やや視点が外れた発言があったこと。
- ◆ 協働の意味に時間を割きすぎたきらいがあります。

- ◆ テーマが大きすぎる。もう少し具体的なテーマが欲しい。

### **【「3. やや不満」を選択した理由】**

- ◆ 議論の視点を分り易くしてほしい。協働の全体像・個別像がまだ掴み切れていない。
- ◆ 「協働」を「ロボット」の用語と対比させた発言があったが、先に製品が完成した「ロボット」とは全く違う。「協働」の正否についてもっと時間をとって検討するべきだ。グループの意見でもあります。
- ◆ 協働の意味がよく理解できていなかったなので、うまく話ができなかった。グループワーク中にだんだん分かり始めたので、今回は上手くディスカッションできそう。
- ◆ 市長挨拶後、“次第”に入るまで個別意見が多々出て約40分費やした。早く本論に入ってほしかった。個別意見を先に吸収しておく方法などないのだろうか？
- ◆ 須田さんの話、プロジェクトの字が小さすぎた。スケジュール以外の発言は司会者が抑制的にコントロールしていただきたい。
- ◆ “協働”については、“この場ではこう考える”と市から言うべきだった。この言葉の解釈にウェイトがかかりすぎた。
- ◆ 内容が良く解らない！セミプロ市民が発言しすぎるのでは？
- ◆ コーディネーターの一方的な運営はよくない。
- ◆ 3月以降再開後にはこのワークショップの立ち位置も異なってくるのではないか。この協議会の役割も明確化してほしい。
- ◆ 市長の冒頭のあいさつはよかった。やはり市長と市職員の温度差が見えた。
- ◆ 行政の日常業務にまで市民が協働するのか？総合計画の個別計画が主体になるのか？
- ◆ 「協働」という言葉の意味を共有できない中では議論が進まない。参加者の意識レベルをある程度そろえる作業が必要？
- ◆ 具体的な協働の事例があればよかったですと思います。
- ◆ 久々の開催に参加しましたが、先が見えなく、課題も漠然としていて、毎度悩ましく参加しています。
- ◆ 質問の設定が大きすぎる。質問タイムの許容は、話の中だけに仕切った方がよろしいのでは。
- ◆ WS1回目は、ブランク明けの説明不足による不満を聞くことで終わってしまった。WS2回目は具体的な話ができた。

### **【「4. 不満」を選択した理由】**

- ◆ ⑤代表市民の参加についての資料が作成されていない。
- ◆ 進行を急ぎすぎている。協働というざっくりした言葉について急に必要か否かという議論は早急